

## 謝罪力

第 11 期 OB 佐藤 和也

今年度、三井住友信託銀行株式会社に入社した第 11 期佐藤和也と申します。社会人 1 年目です。社会人 1 年目という、変わったと感じるものは各々それぞれであります。何か劇的に変化した年となるはずで、小野ゼミ OBOG の皆様にも経験があることでしょう。私にとって 1 番劇的に変化したのは、圧倒的に、謝罪した回数です。社会人成り立ての私は、例えば、業務知識が曖昧であるがゆえに、即答できずその場でお客様に謝ったり、あるいは、自分の力不足で発生させたトラブルに上司を巻き込んでしまった際に、上司に謝ったりもしました。むろん、プライベートにおいても、仕事に忙殺され、デートの約束を忘れ、彼女を怒らせて謝るなんてことは日常茶飯事です。



会社の新人芸（著者は左端）

ただ、そんなマイナスなイメージがある謝罪という行動に対して、実はピンチをチャンスに変えるツールなのではないかと考え始めています。もっと言うならば、謝罪を楽しめる人ほど、上の立場に就いてるのではと感じています。残念ながら、私は謝罪を楽しむという聖域の扉をまだ開いてはいませんので、表現するのは難しいですが、少なくとも当社にて活躍している社員には当てはまっていると考えております。管理職として、部下の失敗を部下の失敗のまま

に終わらせるのではなく、部下のチャンスに変えることができる、そんな度量の大きい人物に私もなりたいと思っております。同じ銀行業界なのに半澤直樹とは真逆ですね！

これまで、私は謝罪をなるべく避けるために、ある程度、未来を予測して先回りした行動を選択してきました。もちろん、小野ゼミで活動してきた時もです。確かに、優秀なビジネスマンとして未来を予測する力は必要不可欠です。しかし、私たちが予測していた以上の出来事に巻き込まれたり、遭遇したりすることは今後、当たり前起きるでしょう。その時にマイナスからゼロに戻すだけでなく、プラスに変えて相手と一生の関係性を築けるキッカケとなる謝罪を身につけたい。そんな事を思いながら、大阪にて、公私ともに充実した日々を送っております！小野ゼミ生が各地で活躍して社会を良くしていくことを願っております。



会社の先輩と甲子園にて野球観戦（著者は後列中央）



今年度の三田祭ブースにて。左から、第11期小平さん、著者、小野先生、第11期石塚さん、第12期中原さん